

ぱるす

発行日 2003年7月 日 第13号
発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター
〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011)512-9497 FAX (011)511-2272
<http://www1.ocn.ne.jp/~s-center/>
E-mail sasshi@tky2.3web.ne.jp
発行人 菊田 浩一 発行責任者 鶴岡 一彦



皆さんこんにちは。

私が8代目所長の菊田浩一です。

当センターは夜間救急診療部と障害者診療部があり、札幌歯科医師会が市民の皆様と直接的に接する窓口となっております。

救急診療部は、夜間における歯の痛みや外傷等の歯科疾患に対応すべく年中無休で札幌会員の先生が診療にあたっています。

障害者診療部は、一般歯科医院では対応の難しい障害を持った方に対する歯科診療を行っており、現在まで多くの実績と評価を受けています。

札幌市が目指す「すべての市民が安心して住め、そして住んで良かったと思える社会」の建設に歯科医療を通じて積極的に協力していこうと考えています。

両診療部とも札幌市民の皆様にも良質な医療を提供しようと日夜頑張っておりますが、何かお気づきの点がありましたらE-mail/FAXにて送信してください。



皆さんこんにちは。

6代目障害者診療部長の橋本です。

当センター障害者診療部は開設21年を迎えました。

皆様のご理解、ご協力のもと、より一層の充実を図りたいと思います。

現在、このセンターは治療だけでなく、保護者対象の懇談会、障害者診療ネットワーク、ぱるすの発刊、摂食・嚥下リハビリテーションなどを行い、総合的な口腔ケアを進めております。

今回「もっと同じ先生による継続した治療を受けたい」という皆様の要望を受け、診療体制を見直し大幅に変更しました。

より安心してスピーディな治療が受けられるようにと考えております。

我々所員・スタッフ一同の波動と皆さんの波動が共鳴してより大きなうねり(=WAVE)を創れるよう「ぱるす」の気持ちで皆さんと目指したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ご意見ご要望は、本誌「ぱるす」、障害者診療室受付横のご意見箱、メール(sasshi@tky2.3web.ne.jp)

FAX(011-511-2272)等にどんどんお寄せ下さい。

又、体型が充実(縦?横?)したドクターや顔にWAVEのかかったドクターにも気軽に声をかけて下さい。

一同お待ちしております。



「障害者診療部の先生方」

新しく担当医になりました



木曜日 金山 直樹 先生

木曜日を担当させて頂いております。
診療室内の雰囲気がとても良いので、逆にパワーをもらっている気がします。



木曜日 堤 智紀 先生

本年4月より任期3年でセンターにて歯科治療を担当することとなりました
堤 智紀です。
北海道大学歯学部在職期間中に、小児並びに心身障害児の歯科診療に従事
しておりました。センターでは7/17(木)より4週に1回のペースで診療させて
頂く事になっております。どうぞ宜しくお願い致します。



土曜日 山口 親彦 先生

歯科医歴21年の新人所員です。
障害者診療はあまり経験が無いのですが、今後勉強しながらやって行き
たいと思います。よろしく。



土曜日 宮脇 雅裕 先生

初めまして、こんにちは。今年度から担当医となりました宮脇です。
なにぶん初めてで(センターの診療室システムもよくわかってないし、障害者診療
というのも不慣れではありますが)若干とまどっているところであります。
これから精一杯勉強して皆さんのお役に立てるようになりたいと思いますので
よろしくお願ひします。
あ、通常の診療に関してはそれなりに経験がありますから、自信があるので
安心くださいね。



小原恵ちゃんは、小学校の頃から憧れていた坂上仁堂^{よしたか}さんと
口腔医療センターで再会しました。♥

仁堂^{よしたか}さんと中村圭吾くんは同級生。

そんな偶然をもたらす、ちょっと”ロマンチック”な一日の出来事
でした。(レポーター 歯科衛生士 横濱 峰二子)

左奥 中村圭吾くん
左前 小原恵さん

右手前 坂上仁堂^{よしたか}くん

矯正治療を終えて
長沢美保さんのお母さん



笑顔で
長沢美保さん



小学校4年生の頃から、口腔医療センターに通院し19年が過ぎました。

平成10年頃に、口腔医療センターより紹介されて、北大で矯正治療を受けることとなりました。北大の先生より治療の説明を伺った時、手術を伴う矯正治療だということで不安もありましたが治るのであれば治してあげたい、本人の「がんばる」という気持ちで挑戦することにしました。

手術が決まるまでの期間、精神的にも色々と不安が見られるようになり、手術に対しても止めたほうが良かったのかなと思いました。

今年、お正月あけ、入院・手術が決まり検査中、少々イラ立ちも見せておりましたが、術後の2週間は精神的にも安定しており、母親としても救われた気持ちでございました。

今では、本人も「装置が取れたら色々なものが食べられるね!」と喜んでおり、その様子を見て安堵しております。



長沢美保さんの
作品から(3作品)

「ほのぼのくん」のこと

香取道雄さんのお母さん



押し入れの中で、埃をかぶって眠っている紙の束がある。大掃除のたびに悩み、やっぱり処分できなかった彼のらくがきの産物。その中からその時々私の気分で選び出し額に入れて壁に飾ったら、うれしそうに飽きずに観ていた彼。

幼少期の彼は、彼の世界で絵を描いていた。グラウンドに這いつくばって、5本の指先にタコが出来るほど何時までも地面をこすっていた。大きな大地が彼のキャンパス。等間隔に繰り返される指の跡。未完成な作品を残して「今日はおしまい」と宣言して帰る日々だった。真っ白い雪原や青空も、彼の大好きなキャンパスだった。

外に出られない日は、紙とえんぴつで過ごす。彼は与えられたものには興味がなくて、床や窓、壁などに自由に好きなように描ききたがった。私との葛藤があったのは言うまでもない。

私は紙に書いて欲しいと要求し、パターン化した彼の世界に普通の世界の概念を注いでみようと思試みた。同じ頃学校でも教えられ、従順な彼はまもなくパターン化した人物を描くようになった。

「ほのぼのくん」の誕生である。しかしいつのまにか、彼は絵を描くことに興味を失ってきた。

そうであっても大人は彼に絵を要求し続けた。彼は要求どおりに「ほのぼのくん」の絵のみを描いてくれた。

彼の大好きな模様のような世界を封じ込めてしまったのかと自責の念に駆られる事もあったが、もうどうする事も出来ない。

悩み苦しみ、挫折しそうになった時、壁に掛けてあった「ほのぼのくん」が「どうしたの?」と問いかけて「わらって!」と励ましてくれたことがあった。

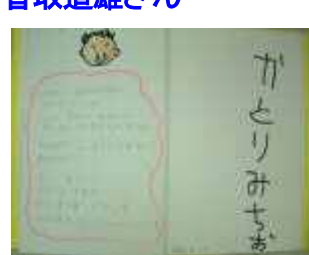
「ほのぼのくん」の絵は、彼自身の意志で描いてはいないとしても、私にささやかなしあわせを与えてくれるのだから、これは彼からのプレゼントなのだと思う事にした。

それに彼自身も結構気に入っているようだし。



香取道雄さんの
作品から

香取道雄さん





「個展案内ポスターと後藤和哉さん」

五月の連休を前にしたある日、患者さんの後藤和哉さんから個展開催のお知らせを戴きました。和哉さんは平成4年、3歳で初めて口腔医療センターを受診され、今年中学3年生。検診だけでも涙と汗でぐっしょりになっていた姿が今では懐かしく思い出されます。5月5日の子供の日、春の風を感じながら会場の江別市大麻、「カナリヤ画材店」さんに出かけました。お店の一角に和哉さんの個展会場が設けられていました。



「和哉さんの力作から」

小学校5年生位から白抜き文字をかきはじめ、今では文字と一緒にビルや鉄塔を画用紙いっぱい描くようになったそうです。ご両親から「外出した時、車窓から見た景色の中から興味のあるものが写真の様に記憶に残り、それを描いているのでは？」とのお話を伺いました。

近頃の作品には『塗りつぶし』や『この部分はまた後で描き足したい・・・時のしるし』等、今までに無かった表現が加えられてきているようです。

カナリヤさんとお付き合いのある水彩画の先生が「『塗りつぶし』に濃淡があって、まるで四角錐を真上から見たように描かれている」と絵のそばに説明文を書かれていました。

白抜き文字とビルと鉄塔、そして塗りつぶされた部分が赤やオレンジの明るい色のマジックで、一枚の画用紙に不思議なバランスで描かれています。

一枚一枚作品を見て行くうちに、絵と額の色合いがより和哉さんの作品を際立たせているように感じました。会場のカナリヤさんの奥様が額装を引き受けてくださったとのことでした。

和哉さんの作品はこれからどんな風に変化していくのでしょうか。とても楽しみです。

そして周囲の方の愛情もいっぱい感じた一日でした。



「展覧会の様子」



先日、「第7回施設職員対象保健講習会」
として、当センター所員の田村宏先生、藤原主任歯科衛生士と
一緒に、新琴似にある『札北荘』に行ってきました。
初夏らしいぽかぽか陽気の中『札北荘』に到着すると、センター
でもおなじみの透君が最初に出迎えてくれ(たまたま玄関にいた
だけ…?) 私達の緊張もすっかりほぐれました。
会場となった体育館には、朝のひと作業を終えた(札北荘では
アスパラを育てたり、タオルをたたんだり…一人ひとりがんばっ
ています) 98名の利用者さんと若さあふれる27名の職員の方

々の笑顔が待っていてくれました。

講義を担当したのは藤原主任。今回は『むし歯』『歯周病』についてお話ししました。

こちらの問いかけに答えてくれたり、「プラーク? しらな〜い!」と良いタイミングで合いの手を入れてくれたりと約20分のお話を皆さん熱心(+マイペース…?)に聞いてくれました。

後半は『はみがき指導』です。個別指導では、田村先生と藤原主任が利用者さんのお口の中を観察し、個々の特徴を考え、個人個人に合った歯の磨き方を利用者さん・職員の方にアドバイスしました。

その他の利用者さんは私と一緒に歯みがきの練習です。

大きな歯の模型とそれに合わせた大きな歯ブラシを使って、磨く所を皆で確認しながら「1・2・3・4…」。皆も私の声に合わせて「1・2・3・4…」と大きな声と一緒に数えながら一生懸命磨いてくれました。

利用者さんは元気はつらつ。職員の方々はとても熱心。

私達は大満足。そしてなにより嬉しかったのは、センターに通っているおなじみの人達が、センターでは見たことのないのびのびとした姿を見せてくれた事です。

皆の顔を思い出しながら、帰り道はその話題でもちきりでした。



今年から3年、また編集長をやらせていただくことになりました。
DJじゃないからリクエストの曲は無理だけど、ご意見・お便りお待ちしております。
皆で「ぱるす」を盛り上げていきましょう。

PS. パソコンをお持ちの方はセンターのホームページを開いてみて下さい。
齋木章 企画研修部副部長のガンバリでリニューアルしました。
ぱるす共々ご愛顧の程よろしくお願いします。



救急診療部・障害者診療部のことはこちらで!

Q & Aコーナーも新設!

アドレスはこちら <http://www1.ocn.ne.jp/~s-center/>

すみから
すみまで



ズズスイツ

(中澤潤 企画研修部長)